



「あいさつ勝負」バージョンアップ!

 校長 とよしま 豊島 のぼる 登

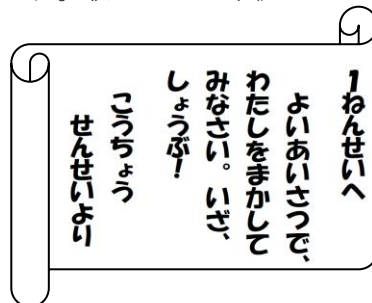
新学期がスタートして、早や1カ月となりました。長期化する感染症対策と同じように、学校生活にも“慣れ”と“疲れ”が感じられる頃です。今年のゴールデンウィークは、外出自粛となりそうですが、家族でゆったりとお家時間を楽しめたらよいなと思います。みんな、4月から新しい環境に適応しようと、いろいろなところに余分な力が入っていたことと思います。十分に体を休ませる充電期間として、よい休日をお過ごしください。

さて、毎年行っている学校評価の中に、「おはようございます」「ありがとうございます」等のあいさつ指導に関する項目があります。昨年度の結果を見ると、「そう思う」「だいたいそう思う」と答えた教職員、児童、保護者は、いずれも90%を越えています。しかし、「そう思う」だけを取り出してみると、教職員52%、児童75%、保護者46%となり、児童と大人とで意識の差がはっきりと浮かんできます。

そこで今年度は、次のようにバージョンアップした取組をとおして、「大人たちもがんばったので、気持ちのよいあいさつのできる子が増えた」という実感がもてるようにしたいと考えています。

① 気持ちを伝えることを意識させて「あいさつ勝負」を続けます。

子どもと私との毎朝の「あいさつ勝負」を今年も続けます。初めての対戦となる1年生には、各教室に右のような“挑戦状”を送りました。勝負のポイントとなる「あかるい声で・いつでもどこでも・人よりさきに・毎日つづける」についても、担任から伝えてもらいました。



2年生以上の学年には、「相手に気持ちが伝わるあいさつ」について指導します。例えば、「おはようございます」というあいさつには、「私はきょうも元気です」

とか「きょうも1日よろしく」といった気持ちが込められているはずです。それが相手に伝わるように、あいさつをする相手と視線を合わせ、相手に聞こえる声ではっきりと言えるかを、真剣に、そして楽しくバトルしていきます。

② 私たち大人がよいあいさつの手本を示します。

子どもが笑顔であいさつするときというのは、「あなたに会えてうれしい」という気持ちがあるからだと思います。初対面の人と自分から進んであいさつをするというのは、なかなか難しいことです。私たち大人は、「あいさつはできて当たり前」と思いがちですが、そのことはいったん脇において、子どもに手本を見せるべき大人として、子どもたちを認め、励まし、生活への意欲を高めるような素敵なあいさつで包んでいただきたいと思います。保護者、地域の皆様の一層の御理解御協力をお願いいたします。